

パンタナール通信

南北米福地開発協会 会報 第3号 2003年12月1日発行

人と自然の共生と共栄を求めて



牧場整地にトラクターを駆使し奮闘する神山会長



パラグアイ河支流で憩う馬の親子



最近生まれた子牛十四



(事務局)

柴沼報告(5)



(パンタナール地域レダ訪問)
十一月三日、成田を出発、パラグアイの首都アスンシオンに三十六時間をかけて到着、一日、アスンシオンでの準備を終え、セスナで2時間半、800kmにあるレダの基地に六日到着した。4年前の開発当時は荒れ果てた地であったが今は一変し、パンタナールの自然の中、自然と調和した美しい場所となっている。日本とは地球の裏側にあり、気候も反対で暑さが厳しくなる時期にあり、日中は日陰でも四〇度を越え、炎天下では五〇度を越える厳しさでした。今回の訪問の目的は現地に南北米の財団結成のためと支援者の方々の記念植樹の樹の成長を確かめる事、そして、将来のこの地域でのエコツアーの可能性の調査のためでした。植樹をはじめ、3年、粘土質の厳しい土壌、乾燥期が長く雨が降らない気候の中で不可能と思えるこの地域にも、人間が愛し、育てれば上の写真の如く花も咲き、実もなることを見て感動しました。また、森にはなつては居ませんが木が育ち、林を作るとともに、集う鳥の数が増えている事も確認できました。基地から少し奥地に行けば、鹿、大蟻食い、アルマジロ、狸、狐、ダチヨウなどを見る機会も有りました。今後、モデル牧場を造成しながら、現地のインディオに雇用をもたらし、彼らの生活の水準と教育水準を高めるとともに、貴重な自然を保護していける道を作ろうと希望に燃える会長始め十数名の日本のボランティアの方々への願いが成功するためには、日本からの支援がより一層、必要である事を感じました。

第一回 1日研修会 (11月8日)



山岡建雄講師
「地球で何が起きているのか」
「私達に何が出来るか」



高津啓洋講師
「環境問題を解くキーワード、
多様性と共生」
「何故パンタナールに木を植えるの？」

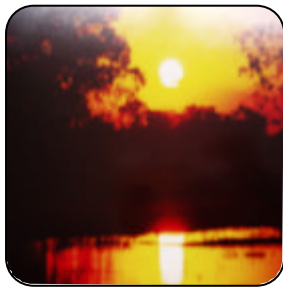


飯野貞夫講師
「パンタナールの開拓と状況」
「レダ基地展望と今後」

三十七名の参加者を得て、講師と共に熱気に溢れた一日でした。講座は三人の講師が二講座ずつ計六講座でした。既に四年以上に亘ってパンタナールの開発と環境保護を目指して歩んできた当会の実績を基盤として、

第一回「1日研修会」開か
る。(十一月八日)
一人でも多くの方々に、私達の活動を理解して戴いて、より多くの方のご協力を頂ければ、継続的發展をしていくことが出来ます。そのことよって当会の目的を達成していきながら、地球規模で、より多くの方々と喜びを一つにすることが出来ることを、当協会を紹介する一日研修会が開かれました。

主婦(五十歳)
『今日は貴重なお話を伺いありがとうございました。小さな活動が大きな実りになり、人々を生かすと、将来を見据えた開発を行っている事についても希望を持ちました。素晴らしい自然、絶対に現地に行つて参加したいと思いました。環境破壊がこれほど進んでいたとも思わずに来ましたが、この会に参加でき、自分の生活と活動に対する意識を変えていかなければとも思いました。』
自由業(男性五十五歳)
『本日の研修に関しては何にも前知識がありませんでしたので、一つ一つの講話に感動を覚えながら一日を過ごすことが出来ました。尚環境問題に関しましては多少関心もありますので、本協会の活動には大いに賛同協力して行きたいと思えました。今後の発展を心よりお祈りいたします。』



パンタナール

ビデオや写真、資料などをふんだんに駆使しての体験談や証、研究レポートなどの講座は、分かりやすく身近なこととして多くの共感を呼んだようです。「こういう研修会なら沢山の人の人知ってもらいたい。」
「自分にも参加できることがわかり、希望が湧いてきた」などと前向きな感想や意見が続出しました。
(飯野事務局長報告)

第2回研修会案内

第二回一日研修会は1月17日(土)に開催します。内容は第一回と同じです。
場所：南北米福地開発協会研修室
参加費用：4000円(昼、夕食付き)

申込みは事務局まで

2004年カレンダーを販売しています。(1枚400円)

ビデオ(18分)
『パンタナール・レダ開発の歩みー地球環境保護を見つめながら』(一本1000円)
申し込みは

南北米福地開発協会事務局
〒150-0001
渋谷区神宮前6-19-14
電話 03-5774-0544
Fax 3407-0145

